

植物多様性を知る・守る・伝える 筑波実験植物園

見ごろの植物

第390号 2010年1月14日

次号予定1/23

今週のベスト3!

--- 園内に番号札があります(ベスト3のみ) ---

1. 冷温帯区画：葉を落とした木々の姿が新鮮です。見上げれば一面の青空、林内の明るさに冬らしさを感じられます。

散策路を落ち葉を踏みしめながら歩いてみてください!

2. ユズ、ハナユ：黄色い実がすすなりです。色・形・香りが少し違います。シソ科

3. カワラハンノキ、ヤマハンノキ：細長いつぼみを枝から無数に下げています。加バ科 (トピックもあわせてごらんください)

じゅもーく先生トピックス

3. 冬芽(ふゆめ)と葉痕(ようこん)

冬、寒い地方の樹木は春に咲かせる花や葉を冬芽の中に入れて眠りにつきます。芽には芽鱗(がりん)に覆われた鱗芽(りんが)と、中身が丸出しの裸芽(らが)があります。それらは毛をまとっていたり、ベタベタした樹脂で覆われていたり様々です。冬芽の下には葉がついていたあと(葉痕：ようこん)があります。そこにある小さい点々は、葉と枝とで水や生産物が行き来した維管束(いかんそく)の断面です。冬芽や葉痕には樹種ごとに特徴があるので、比べてみるのも面白いのではないのでしょうか。いま、カバノキ科植物の細長い雄花序(ゆうかじょ)が連なって下がっている様子が見られます。特に**ハンノキ、カワラハンノキ、ヤマハンノキ**の雄花序がよく目立っています。

凍っているところがあります
ご注意ください



5. ヒメカジイチゴ：淡い色合いの景色の中で、紫紅色の茎がよく目立っています。バラ科

6. ハンノキ：林野の湿地に生える高木。枝いっぱい赤茶色の雄花序がついています。カバ科

7. ヤエヤマカンアオイ[EN]：西表島の固有種で、島の一箇所にのみ分布が確認されています。ワスレグサ科

8. ウメ：つぼみがふくらんで、まもなく花が咲きそうです。バラ科

9. 野菜いろいろ キャベツやブロッコリー、ハクサイ、タアツァイ、ダイコンなどが育っています。

10. ソシンロウバイ：淡い黄色の花がスパイシーで甘い香りを漂わせています。ウバイ科

11. オオユキ/ハナ：スノードロップのひとつ。可憐な白い花が咲いています。ヒカゲナ科

※見ごろ期間の短い植物もあります
ご了承ください



温室の見ごろ植物

第390号 2010年1月14日

次号予定1/23

今週のベスト3!

--- 温室内に番号札があります(ベスト3のみ) ---

1. 世界最大のラン グラマトフィルム・スペキオスム：自生地でもめったに開花しない花を見るチャンスです！

2. マダガスカル女王 エウロフィエラ・レンフレリアナ：マダガスカルに分布する大型のラン。赤紫色の花を咲かせています。

3. フーゲンビシヤ：花のように見えるピンク色の苞の内側で白い小さな花が満開です。ウラボシ科

5. ツルタコノキ：花がたくさん咲きました。薄紅色の苞の中にある棒状のものが花です。ウラボシ科

6. レナンテラ2種：熱帯雨林温室の1階でレナンテラ・ペラ、2階でレナンテラ・コッキネアが美しい花を咲かせています。ウラボシ科

7. サリラン(アラクニス・ロンギセパラ)：カリマンタン島北部の森林の木に着生するめずらしいランです。

8. ローレルカスラ：手すりに伸びたつから淡い紫の花をいくつも咲かせています。ウラボシ科

9. ポインセチア：樹高3m強もあるダイナミックな姿をぜひご覧ください。ウラボシ科

10. クラッスラ・ポルツラケア・オフリクア(花月)：「金のなる木」として知られます。淡いピンクの花が咲いています。ウラボシ科

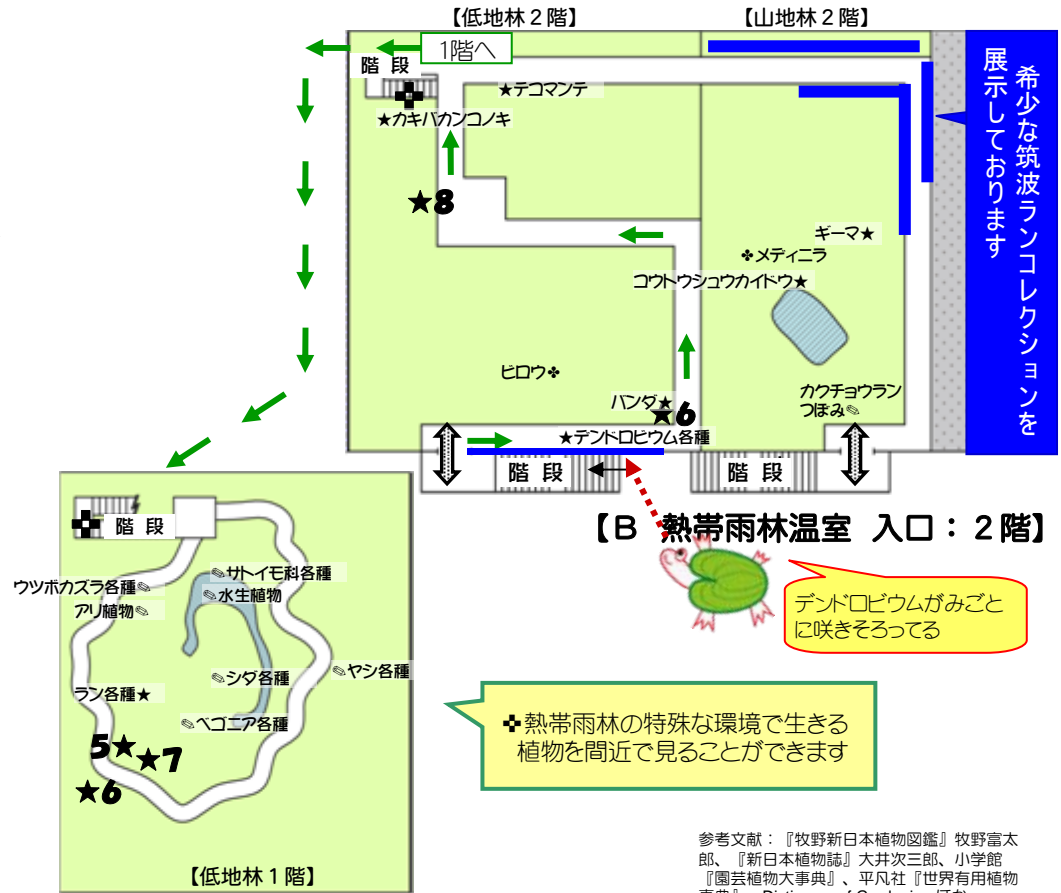
11. 柑橘類の実：グレープフルーツ、シトロン、レ몬の黄色い実が大きく育っています。シトロンには花も咲いています。ミカン科

12. クレオテンドルム・クアドリロケラ：放射状に広がって咲く花に勢いを感じられます。ウラボシ科

※見ごろ期間の短い植物もあります。ご了承ください



【C 水生植物温室】



【B 熱帯雨林温室 入口：2階】

デンドロビウムがみごとに咲きそろってる

熱帯雨林の特殊な環境で生きる植物を間近で見ることができます

参考文献：『牧野新日本植物図鑑』 牧野富太郎、『新日本植物誌』 大井次三郎、小学館 『園芸植物大事典』、平凡社 『世界有用植物事典』、Dictionary of Gardening ほか



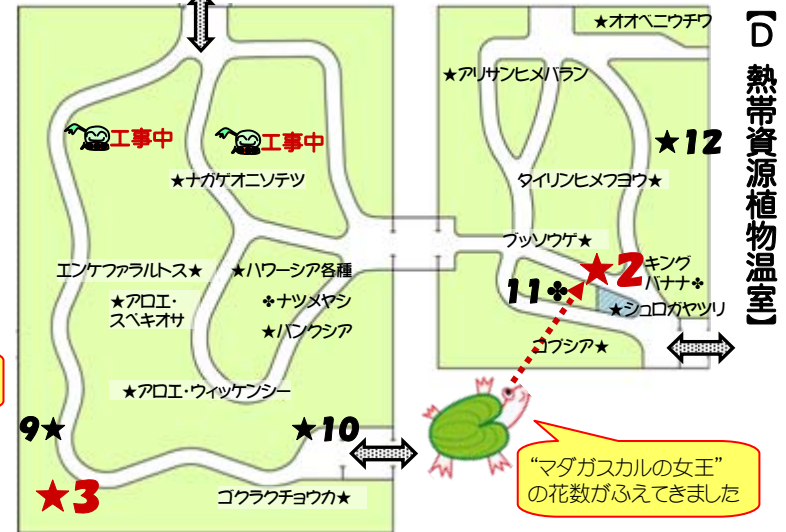
じゅもーく先生ピックアップ

2. エウロフィエラ・レンフレリアナ

「マダガスカル女王」のニックネームを持つ、ラン科でもっとも大きくなる種のひとつ。マダガスカル東部の海岸から中央高地の標高1000mあたりまでの限られた場所にしか分布しません。この植物は、タコノキ属の枝にしか着生しない変わった特徴がありますが、なぜ他の種類の本木に着生しないのか、理由は分かっていません。花を見るチャンスがめったにないため、19世紀末にヨーロッパに持ち込まれて以来、花が咲くたびにニュースになりました。(自生地では本種が着生するピヨウタコノキを並べて植栽展示していますので、あわせてご覧ください。)

【筑波実験植物園 | 植物研究部 多様性解析・保全グループ 遊川】

【A サバナ温室】



【D 熱帯資源植物温室】

世界最大のラン!

“マダガスカル女王”の花数がふえてきました